平成30年度事業報告及び歳入歳出決算の概要

血液事業特別会計

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成30年度の主な取り組み

◆血液事業

・献血推進予約システム「ラブラッド」の導入
・若年層献血の推進（10代の献血者数は前年度比約8,000人増加）
・必要血液量の効率的な確保（循環血液量に応じた採血の推進）
・安定経営に向けた事業の効率化の一層の推進及び各種費用の削減

【事業概要】

・輸血用血液製剤の供給状況：全体1,734万本（前年度比2.0%減）
（医療機関に対して、安定的に供給）
・血漿分画製剤用原料血漿の送付状況：114万リットル（前年度比14.5%増）
（製薬メーカーに対して、計画通り送付）
・採血状況：献血者数474万人（前年度比0.1%増）
（必要血液量を効率的に確保）

【収支状況】

・収益的収入1,609億円、収益的支出1,558億円（約51億円の黒字決算）

1. 平成30年度事業計画の方針

事業環境	・少子化による若年層人口の減少 ・輸血の安全性向上へのさらなる期待
基本戦略	・将来の献血者層となる若年層の啓発を推進する。 ・血液製剤の安全性向上に取り組む。 ・採血から供給に至る事業効率を改善する。

主な施策

（1）献血者の安定的確保

（2）血液製剤の安全性向上

（3）事業改善の推進

（4）健全な財政の確立

献血キャラクター
けんけつちゃん

2. 平成30年度の事業概要

製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数

拠点数は平成30年12月31日現在

献血者

事業所や学校等での協力

・献血バス　276台
・献血ルーム　141カ所

400mL献血
323万人

成分献血
136万人

200mL献血
14万人

計474万人

血液センター

血液の検査・製造

・検査拠点　8ヵ所
・製造拠点　12ヵ所
・供給拠点　102カ所

赤血球製剤
635万本

血漿製剤
218万本

血小板製剤
881万本

計1,734万本

原料血漿
114万リットル

医療機関

血漿分画製剤

製薬メーカー

一般社団法人 日本血液製剤機構 Japan Blood Products Organization

日本製薬株式会社 NIHON PHARMACEUTICAL CO.,LTD.

kmb KMバイオロジクス株式会社

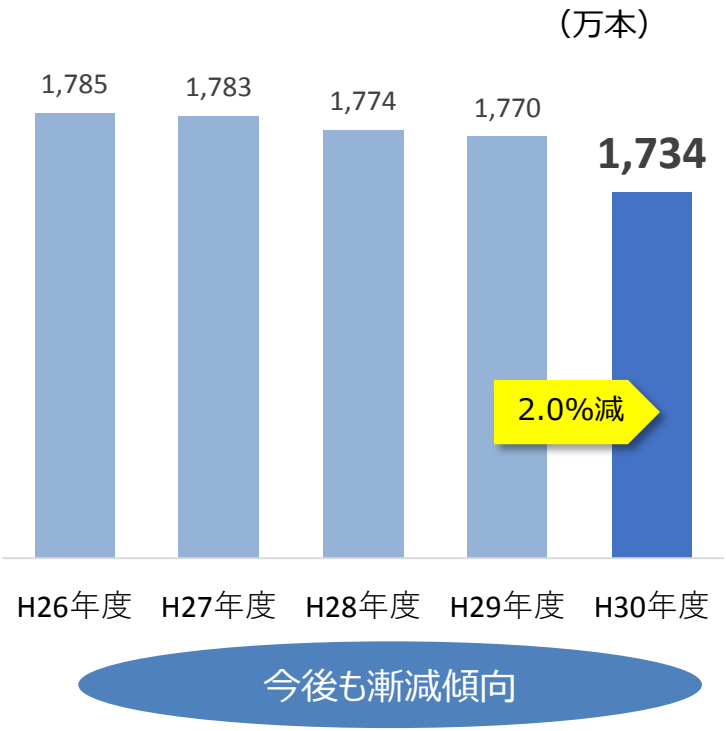
輸血を必要とする患者さんのために474万人に献血の協力をいただきました。
その結果、輸血用血液製剤については安定的に供給することができており、
血漿分画製剤用の原料血漿についても計画通り送付しました。

（1）輸血用血液製剤の需要動向

輸血使用量の多い高齢人口が増加しているが、医療技術の向上、適正使用の推進等により、この数年、漸減傾向にある。

輸血の需要状況

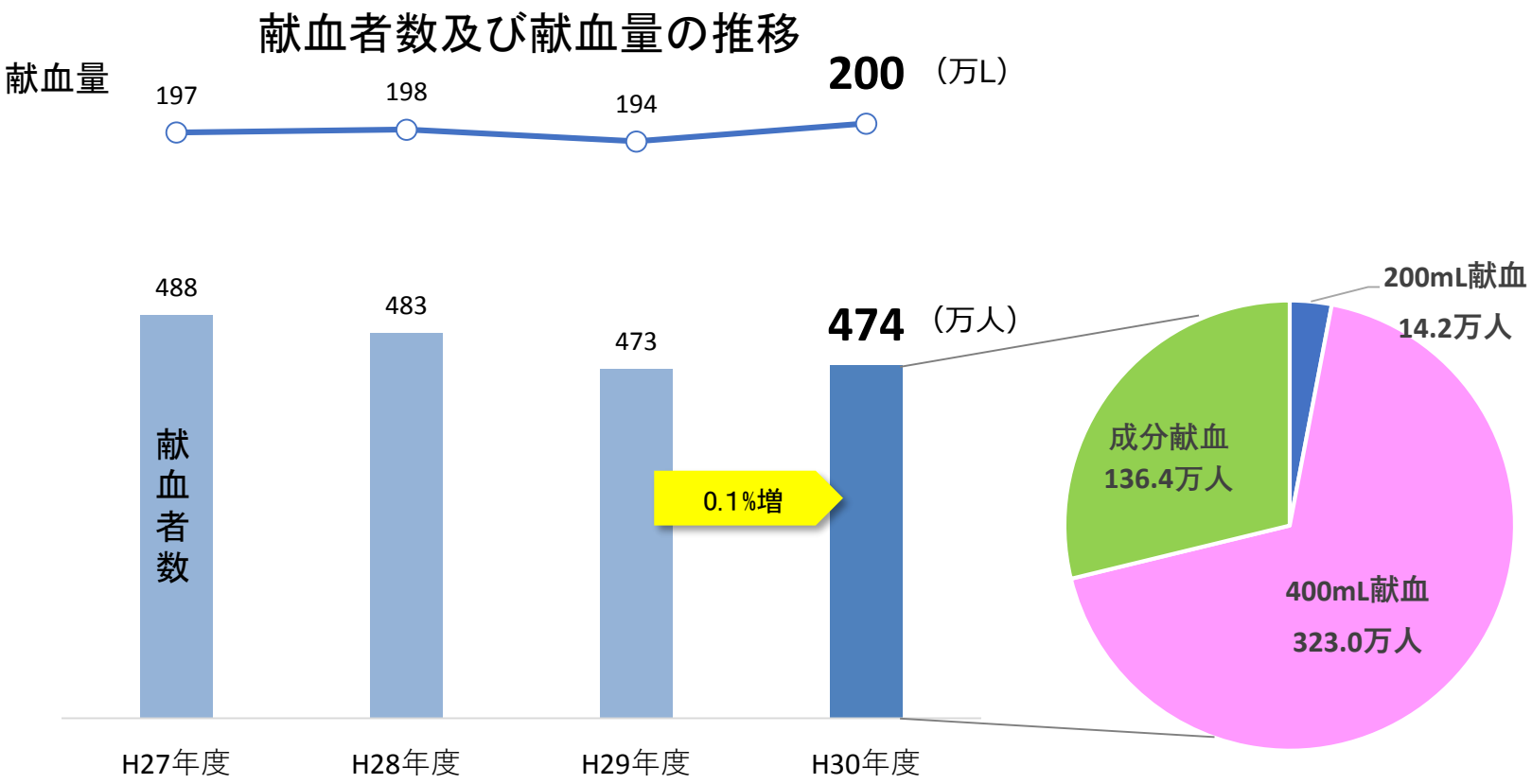
輸血用血液製剤の供給量



製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数
FFP-LR120は1単位、FFP-LR240は2単位、FFP-LR480は4単位として換算

（2）献血協力の状況

400mL献血、成分献血を中心に、需要に見合う血液量を安定的かつ効率的に確保した。



3. 各施策について

(1)献血者の安定的確保

近年、協力者が減少傾向にある若年層を中心に推進活動を展開。

・学域献血の推進
　高校における献血実施:1,495回、大学・専門学校における献血実施:2,274回
・「献血セミナー」の実施
　小・中学生対象:590回、高校生対象:957回、大学生・専門学校生対象:723回
・若年層向け献血推進動画の配信
　お笑い芸人「鉄拳」制作のパラパラ動画、YouTuber「東海オンエア」起用の動画を配信

鉄拳パラパラ動画

YouTuberを起用した動画

10代献血者数:延べ人数8,163人増(前年度比103.2%)、実人数4,308人増(前年度比102.1%)

献血推進・予約システムの導入

複数回献血クラブ
ラブラッド
Love Blood

平成30年10月に献血推進・予約システム「ラブラッド（愛称）」を導入。

【導入の主な目的】

・献血予約の推進による必要血液量の安定的確保
・WEB予約による待ち時間解消などの献血者の利便性向上
・複数回献血の更なる推進
・循環血液量の多い献血者への協力依頼

【旧システムからの主な改善点】

項　目	旧システム	献血推進・予約システム
Web予約	一部の献血ルーム	全国すべての献血ルーム
Web予約可否の連絡	翌日～3日後	即時（自動）判定
情報伝達手段	Eメールのみ	Eメール、LINEの選択可
ポイントサービス	一部の血液センターのみ	全国共通

（2）血液製剤の安全性向上

さまざまな安全対策により、輸血による副作用の発生を低減した血液製剤を製造・供給しているが、更なる安全性の向上に向けて、各種対策を進めた。

血小板製剤に対する細菌混入対策

・細菌スクリーニング検査の導入に向けた検討
・感染性因子低減化技術の導入に向けた検討

血小板製剤による副作用低減対策

・PAS血小板製剤（※）の導入に向けた検討

※製剤中の血漿の一部を人工の血小板保存液（PlateletAdditiveSolution：PAS）に置換した血小板製剤のこと

E型肝炎ウイルス（HEV）の感染対策

・すべての献血血液を対象とした検査の実施に向けた準備（試薬規格の決定など）

医療機関対応の一層の強化

・各血液センターにおける医療機関への説明会の実施（製剤の取扱いや輸血副作用など）

（3）事業改善の推進

必要な血液量を、効率的かつ安定的に確保することに主眼をおいた基盤強化を図った。

取り組み事例

献血受入部門

- ◆400mL献血率の向上
- ◆循環血液量に応じた採血の推進
- ◆１稼働当たりの献血者数の向上

改善

検査・製造、供給部門

- ◆血小板製剤の分割製造の増加
- ◆自動化機器の導入や物流の見直しによる業務効率化
- ◆製剤の定時配送率の向上

改善

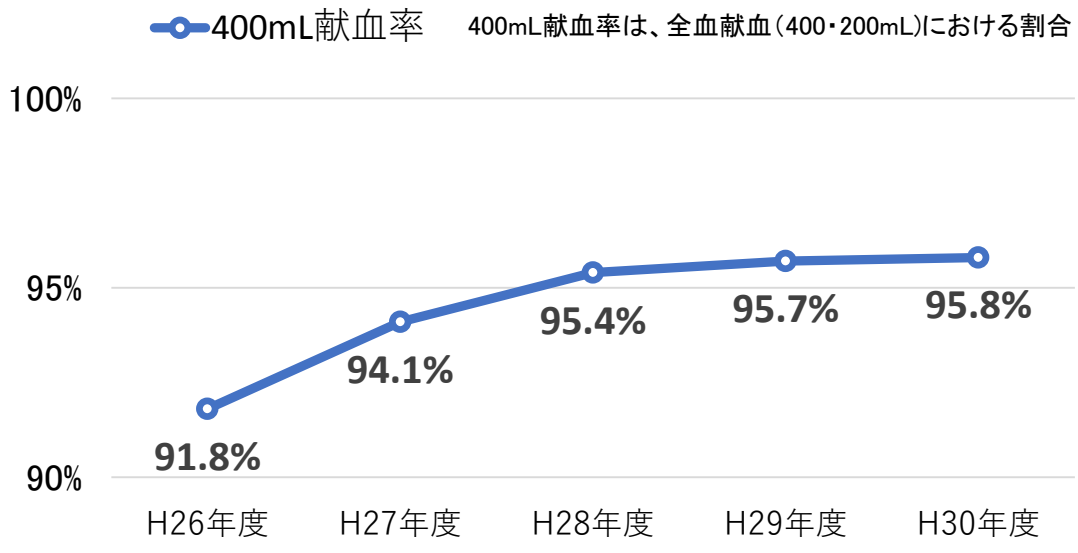
事業改善の取り組み①

◆ 必要血液量の効率的な確保

改善

医療機関からの受注割合に応じて、400mL献血を推進。

循環血液量に応じた採血の推進により、成分献血から得られる血漿量も増加。⇒材料費、経費の抑制に寄与



【血小板採血から得られる血漿採取量（分割除く）】

H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績
220.5mL	▶ 226.0mL	▶ 244.6mL

【血漿採血1本あたりの平均採取血漿量】

H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績
487.8mL	▶ 488.8mL	▶ 503.2mL

事業改善の取り組み②

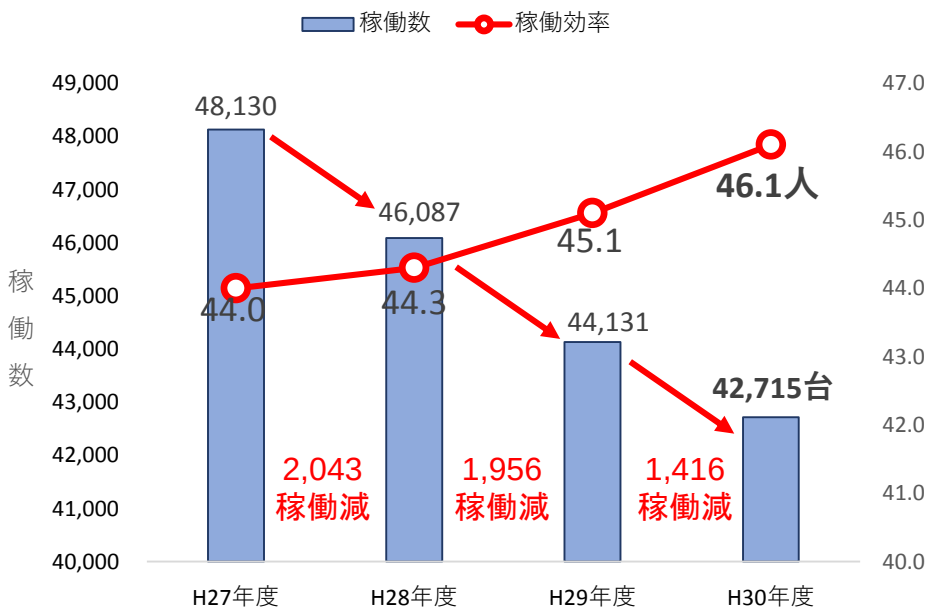
◆ 設備の稼働効率の向上

改善

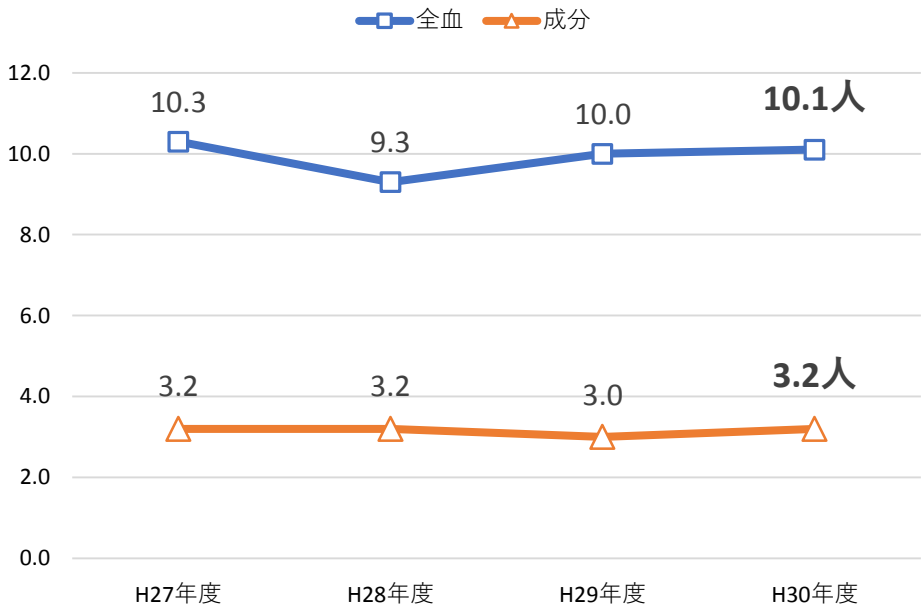
計画的な採血の推進により、移動採血１稼働当たり、固定施設１ベッド当たりの献血者数が増加。

⇒移動採血車や採血装置の削減に寄与

【移動採血車の稼働効率】



【固定施設１ベッド当たりの献血者数】



事業改善の取り組み③

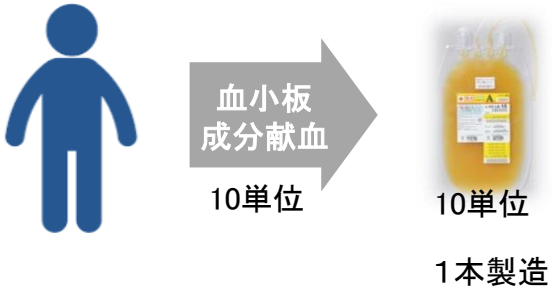
◆ 血小板製剤の分割製造の増加

改善

１人分の血小板成分献血から、血小板製剤2本を分割して製造。

⇒製造コストの抑制に寄与

【通常製造】



【分割製造】

血小板成分献血の分割用採血本数（平成30年度）

238,141本

（血小板成分献血総数の39.3%）

（前年度比115%）

（4）健全な財政の確立

収益漸減の継続が想定されるため、各種コストの削減を進め、健全な財政基盤づくりを進めた。

費目別取り組み事例

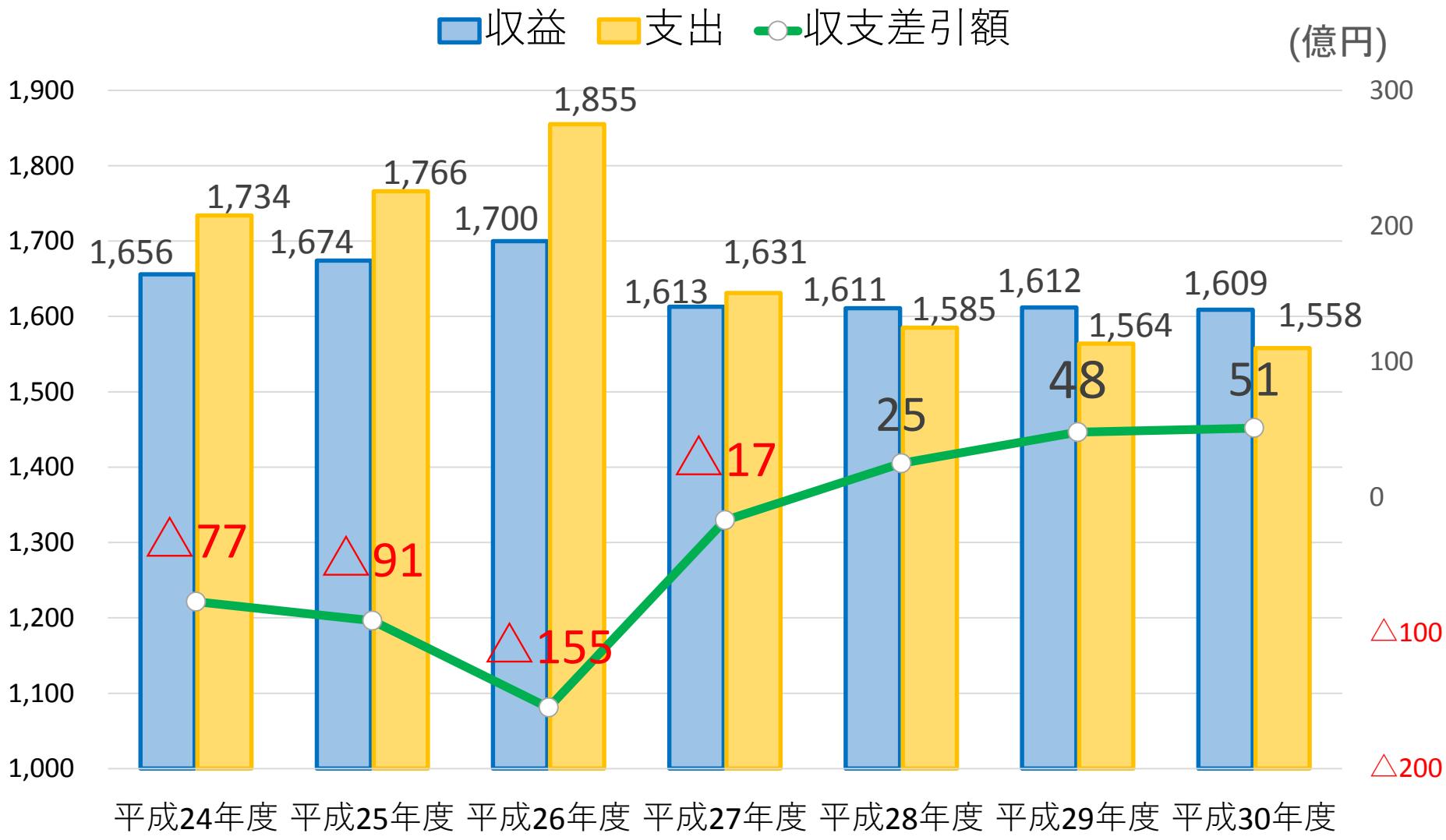
経　費
- ◆費用全般にわたる内容の見直し
- ◆設備、機器の更新時期の見直し

材料費
- ◆必要血液量の効率的な確保
  （血小板分割製造の促進、循環血液量に応じた採血の推進）
- ◆契約交渉による資機材の調達価格の見直し

人件費
- ◆業務効率化による時間外勤務の抑制
- ◆職員定数に基づく職員数の適正管理

→ あらゆる費用の低減

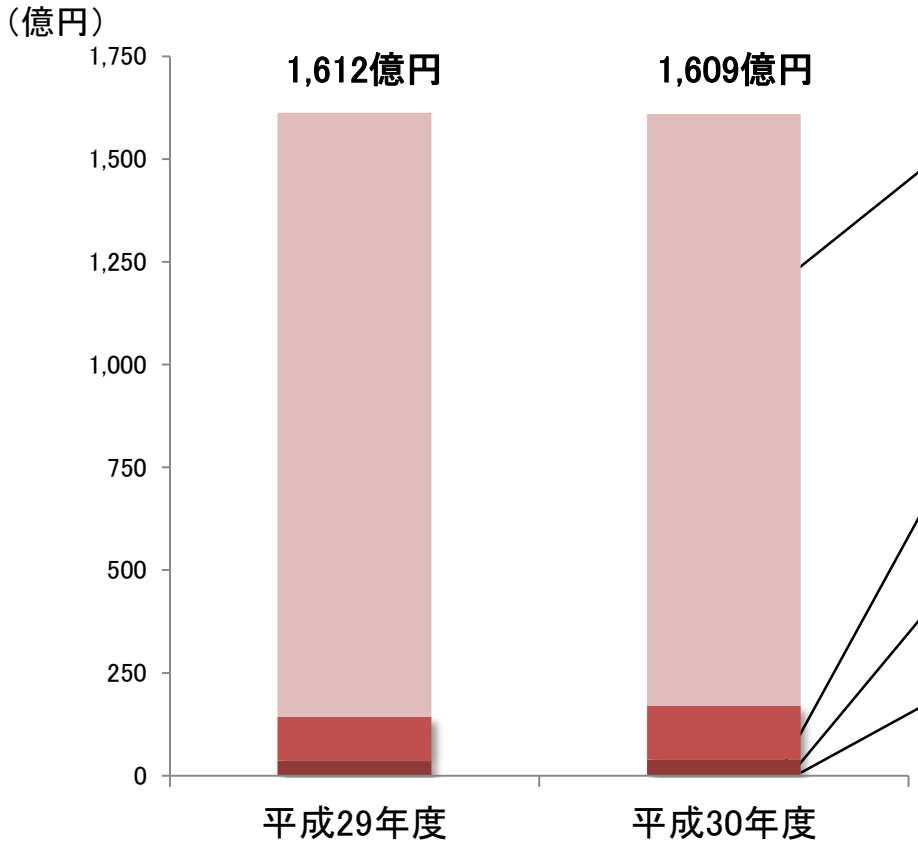
収支状況の推移


収益
支出
収支差引額
(億円)
1,900
1,800
1,700
1,600
1,500
1,400
1,300
1,200
1,100
1,000
300
200
100
0
△100
△200
1,656
1,734
1,674
1,766
1,700
1,855
1,613
1,631
1,611
1,585
1,612
1,564
1,609
1,558
△77
△91
△155
△17
25
48
51
平成24年度
平成25年度
平成26年度
平成27年度
平成28年度
平成29年度
平成30年度

4. 血液事業特別会計歳入歳出決算概要

（1）収益的収入のあらまし

（注）金額は、表示額未満で切り捨てているため、合計額とは一致しません。



輸血用血液製剤供給収益
［1,469億円 → 1,439億円］ △2.0%

原料血漿供給収益
［ 105億円 → 130億円］ 23.0%

その他事業収益
［ 1億円 → 1億円］

事業外収益
［ 20億円 → 22億円］ 7.8%

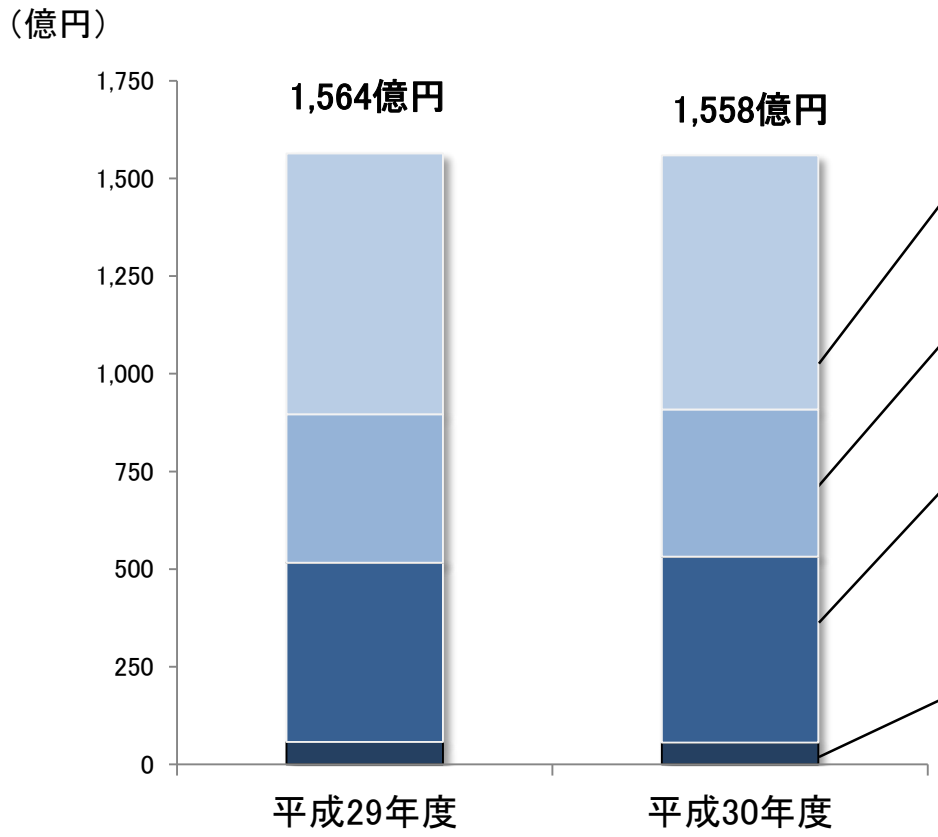
関連事業収益
［ 15億円 → 16億円］ 7.2%

特別利益
［ 0億円 → 0億円］

	平成29年度		平成30年度	増減額	増減率
収益的収入合計	1,612億円	→	1,609億円	△3億円	△0.2%

（2）収益的支出のあらまし

（注）金額は、表示額未満で切り捨てているため、合計額とは一致しません。



人件費
［ 667億円 → 650億円］ △2.6%

材料費
［ 380億円 → 376億円］ △1.1%

経　費
［ 460億円 → 476億円］ 3.4%

事業外費用
［ 35億円 → 36億円］ 1.9%
関連事業費用
［ 15億円 → 16億円］ 6.6%
特別損失
［ 4億円 → 2億円］ △50%

	平成29年度		平成30年度	増減額	増減率
収益的支出合計	1,564億円	→	1,558億円	△6億円	△0.4%
収支差引額	48億円	→	51億円	3億円	

（3）収支改善の主な要因

収益の減少に合わせた費用削減

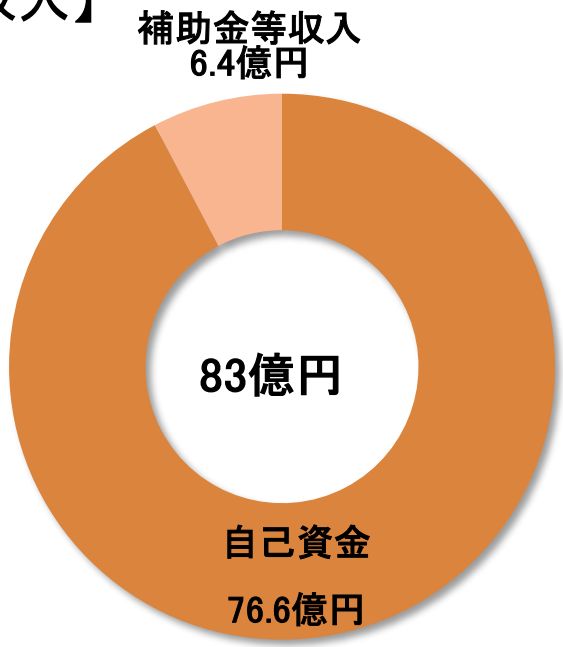
収入の減少	△3億円
ア　赤血球製剤の収益減少　（4.1万本減少）	△6億円
イ　血漿製剤の収益減少　（1.6万本減少）	△2億円
ウ　血小板製剤の収益減少　（1.8万本減少）	△20億円
エ　原料血漿の収益増加　（14.5万L増加）	25億円

費用の減少	△6億円
削減努力による減少	
ア　人件費	△17億円
・業務内容の見直しに基づく新たな職員配置等による削減　（△11億円）	
イ　材料費	△4億円
・効率的な採血による削減（△2億円）	
・単価交渉等、全血バッグ・成分キットの値下げによる減少（△1億円）	
ウ　経費	△1億円
・施設等の計画的な整備による減価償却費の減少　（△4億円）	
・事業内容の見直し等による業務普及費の削減（△3億円）	
エ　・たな卸調整額の増加	16億円

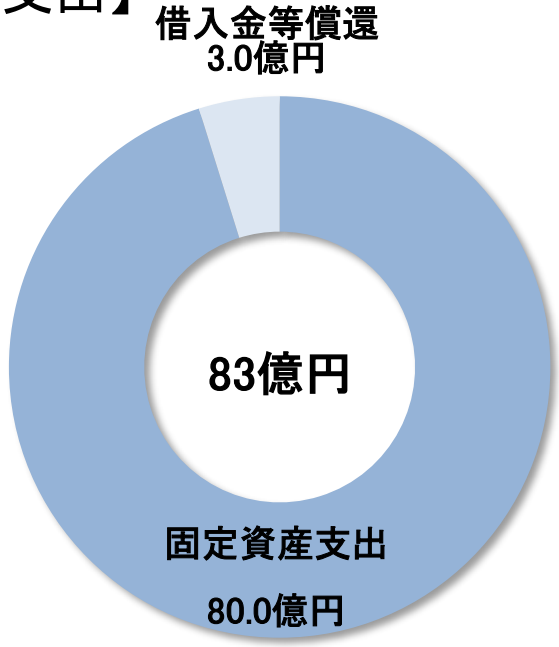
（注）内訳は要因の一部を記載しているため合計額とは一致しないこと

（4）資本的収支のあらまし

【収入】



【支出】



静岡県赤十字血液センター

高知県赤十字血液センター

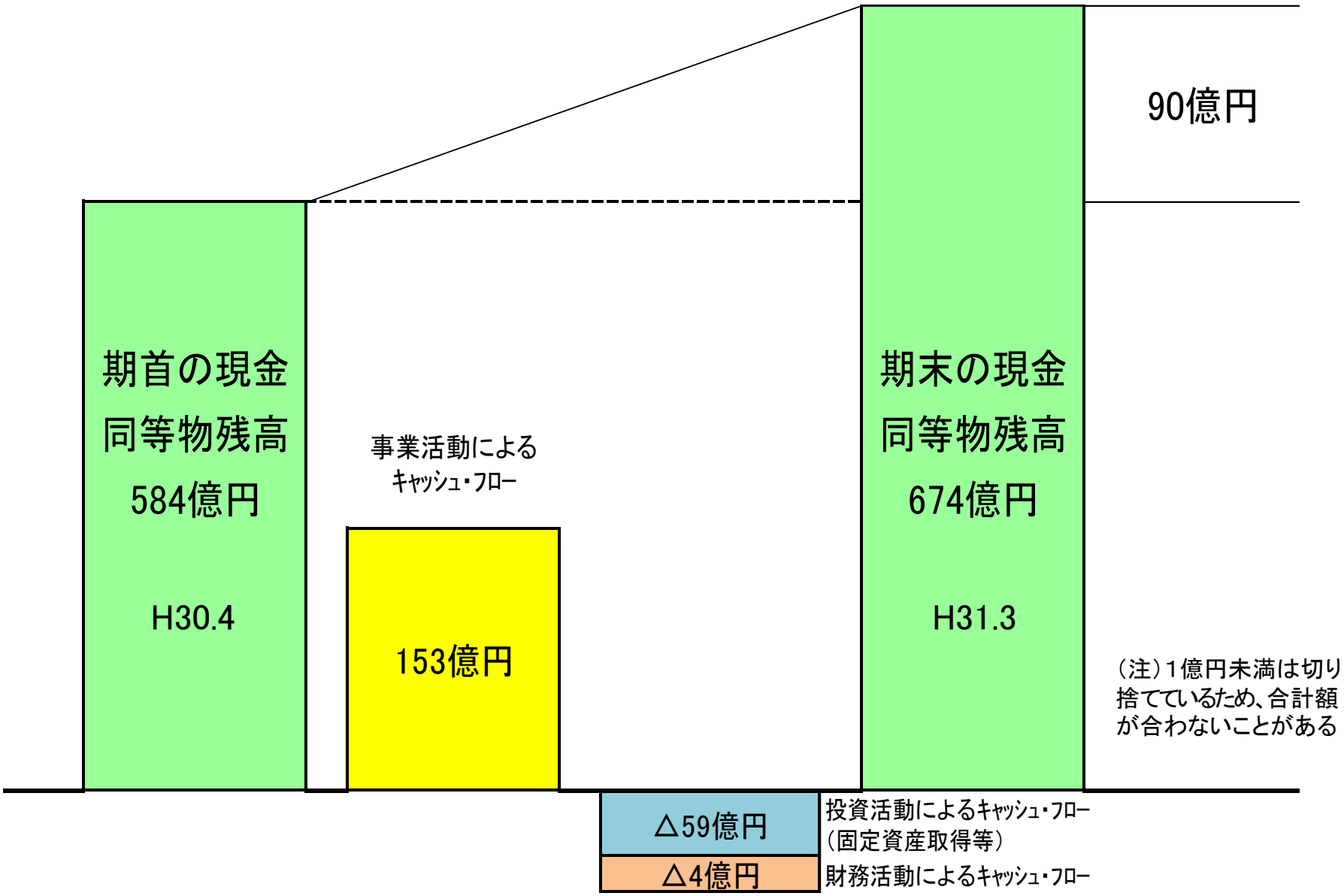
資本的支出の内訳

土地の購入	0.1億円
血液センターの施設整備等	33.2億円
成分採血装置、血液保管庫等の整備	26.1億円
移動採血車、献血運搬車、広報車等	9.5億円
血液事業情報システム等（ソフトウェア）	11.1億円
借入金等の償還	3.0億円
合　計	83.0億円

血液センターの施設整備等内訳

施設名	H30度支出額	総工費
静岡県センター	9.4億円	16.3億円
京都府センター	9.0億円	15.9億円
高知県センター	6.8億円	12.5億円
神奈川県センター二俣川出張所	1.1億円	1.1億円
和歌山県センター田辺出張所（建設中）	1.3億円	3.5億円
その他建物設備等更新	5.2億円	
合　計	33.2億円	

（5）キャッシュ・フロー



（注）1億円未満は切り捨てているため、合計額が合わないことがある

5. 今後の方向性・課題

項　目	目　標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
献血者の安定的確保	将来に向けた若年層の献血協力基盤の構築	• 対象年齢にあわせた普及啓発	• 献血推進・予約システムの活用 • より安全で安心な献血の検討
血液製剤の安全性向上	輸血による副作用の低減・軽減	• 新興・再興ウイルスへの対策 • 新規製剤（洗浄血小板）の供給開始	• 細菌感染防止対策の更なる検討 • HEVなど新たな検査項目追加の検討
事業改善の推進	必要血液量の効率的かつ安定的な確保	• 400mL献血率等の事業目標値を目指した採血効率の向上	• 原料血漿の各種確保対策の推進 • 先進技術の活用による定型業務の省力化の促進
健全な財政の確立	血液需要の変動（収益の増減）に対応できる財政基盤の構築	• 各種費用の削減 • 新たな施設整備の延期・凍結	• 事業継続に必要な施設等の整備